



道の駅「おおがた」 産直センター潟の店

小野寺 紀裕

(大潟村役場産業建設課 主任)

1 周辺環境

道の駅「おおがた」のある大潟村は、20年という歳月をかけて国が実施した世紀の八郎潟干拓事業によって生み出された自然豊かな農村です。道の駅は、この大潟村を南北に走る県道42号線沿いの村中心部に位置し、能代市、男鹿市、八郎潟町、三種町という4つの自治体へアクセス可能な交通結節点に位置する施設です。

2 農産物直売拠点として

道の駅「おおがた」の前身は、平成元年にオープンした「大潟村特産品センター」であり、大潟村産の野菜や果物、加工品の販売が始まりました。平成4年に農家が野菜を持ち込んで販売できる「ポルダー野菜センター」が特産品センターに増設され、県内初の農産物直売所が誕生しました。

新鮮な野菜が並ぶ野菜センターの人気は非常に高く、客数は平成5年が8万人、6年9万人、7年には13万人と驚異的に伸び、平成7年には売上額が1億円を突破しました。

こうした躍進を受け、売り場面積の拡充とレストラン、24時間休憩コーナーなどを設けた「産直センター潟の店」が現在地に建設され、平成12年4月にオープンしました。平成20年には、「産直センター潟の店」が県内27番目の道の駅に登録されることとなりました。道の駅に登録されることで、大潟村の知名度の向上と交流人口の拡大、農産物の売上向上が期待されましたが、農産物の売上は平成20年をピークに下降していき、平成24年には売上が1億円を下回りました。

こうした状況を打破するため、大潟村では市町村と県が協働で地域的課題を解決し活性化を目指す、「秋田県市町村未来づくりプロジェクト



(道の駅おおがた 産直センター潟の店 外観)

ト」を活用し、①道の駅「おおがた」のリニューアルに取り組むとともに、②農産物の販売体系の見直しを行うこととなりました。

① 道の駅「おおがた」のリニューアル

農産物販売スペースを拡張し、店内をお客様が利用しやすいように農産物の商品棚やレジの配置を見直したほか、カウンター式キッチンを含むイベントスペースの設置など店内のレイアウトを大幅に変更しました。また、24時間休憩コーナーを別棟に新設するなど、およそ1億3,000万円を掛けリニューアルを実施しました。

現在の道の駅では、大潟村内の農家が作った新鮮な野菜、パンプキンパイやシフォンケーキなどの加工品、秋田県名産品など多くの商品を



(リニューアル前の様子)



(リニューアル後の様子)

取り揃えているほか、駅内の農村レストラン「なのはな」では米ぬかソフトクリーム、大潟村産黄大豆で作った味噌・大潟村産小麦「銀河のちから」で作った麺を使った「黄大豆味噌ラーメン」や、大潟村産米粉の皮を使った「米粉ギョーザ」など、多くの大潟村産農産物を使用したメニューが揃っています。

また、新設されたイベントスペースでは月2回、講師を招き旬の大潟村産野菜を利用した実演料理教室を開催しているほか、24時間休憩コーナーでは大潟村内のイベント情報だけでなく、村外のイベント情報も発信しています。季節毎に観測できる野鳥を紹介する野鳥通信コーナーもあり、様々な用途で道の駅を活用し交流人口の拡大と農産物販売額の増加を目指しています。

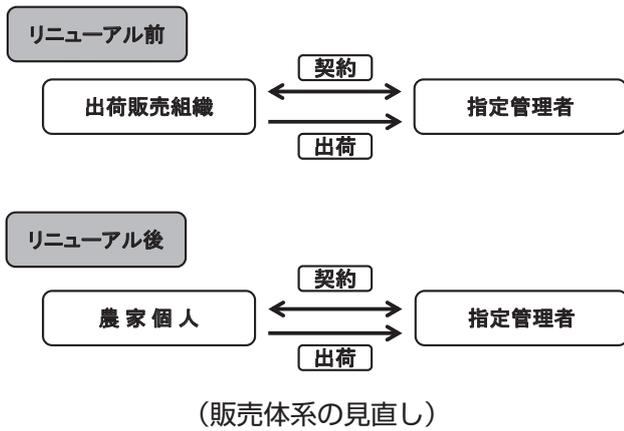


(イベントスペースの活用)

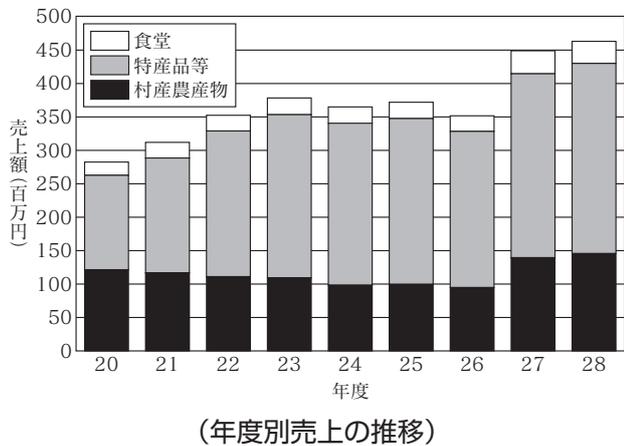
② 農産物の販売体系の見直し

リニューアルに取り組むまで、農産物の出荷と販売は、出荷販売組織と指定管理者が契約を結び行っていました。そのため、農産物を販売する意欲はあるけれども組織に属したくないという農家は直売所での販売ができませんでした。

リニューアルを機に、それを意欲ある農家が誰でも農産物や加工品を販売ができるように、農家個人と指定管理者が直接契約する体系へと見直しました。結果、直売所へ出荷する農家数が増加し、店内に並ぶ農産物は年間を通し充実するとともに創意工夫がされた加工品が多く並ぶようになりました。



このように農産物直売所の拡充、販売体系の見直しを行い、平成27年3月29日にリニューアルオープンした産直センター「潟の店」は平成27年度年間総売上が4億円を突破し、うち農産物売上額が1億3,900万円(前年比+4,000万円)を記録しました。平成28年度も、売上額は向上し年間総売上4億6,000万円と売上額の記録を更新しています。



3 交流・情報発信拠点として

道の駅は、大潟村の玄関口であるとともに、男鹿市、能代市、三種町、八郎潟町とのアクセス拠点です。大潟村の交流人口拡大を図るための重要な施設であり、来村者に村内施設の情報、イベント情報等を発信しているだけでなく「産直まつり」や「新米まつり」などの大潟村産農産物をPRするイベントを定期的で開催しています。

また、道の駅には八郎潟干拓の歴史や全国から集まった入植者の苦労等をジオラマや映像で紹介している「大潟村干拓博物館」が隣接しているほか、道の駅エリアには「市民農園」、「ドッグラン」、「モトクロス施設」、「ビオトープ」などがあり、大潟村を訪れる訪問者との多様な交流の場として機能しています。



(新米まつりinおおがた)



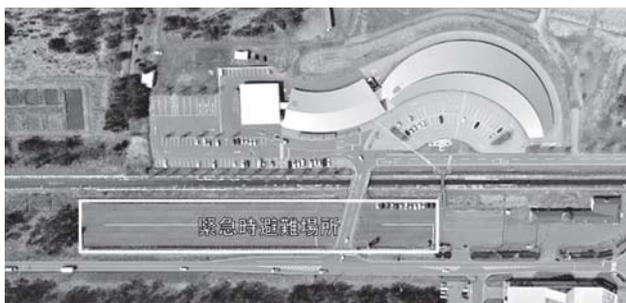
(道の駅エリアの活用「市民農園」)

4 来村者の防災拠点

大潟村は八郎潟を干拓し誕生した村のため、土地は平均海拔－3 mに位置しており、隣接市町とは全て橋で繋がっています。

昭和58年の日本海中部地震による経験、平成23年の東日本大震災を受け、来村者の避難場所として機能強化を図るために道の駅前林地を整備し、指定緊急避難場所として平成27年度に登録しています。

また、大潟村と道の駅の指定管理者は災害時応援協定を結んでおり、有事の際は食料品等の提供を行う体制を整えています。



(道の駅の防災機能)

5 道の駅の今後の展開

今後の道の駅「おおがた」は、①産業の更なる振興、②利便性・快適性の整備、③防災機能の強化というテーマのもと、前記3つの拠点機能の強化を考えています。また、④地域特性を發揮した個性ある道の駅となるよう、隣接する国指定大潟草原鳥獣保護区への散策路の整備を考えています。

この鳥獣保護区には、絶滅危惧種のオオセッカやチュウヒをはじめとする希少な鳥類が生息しています。近年は確認されていませんが、過去にはオオセッカの繁殖も確認された区域です。この希少鳥類が生息する貴重な自然との共生を

図りながら、他にはない道の駅の創造を目指しています。



④地域特性を發揮し、交流の拡大を図る

- ・景観整備 —桜・モミジなどの植栽—
- ・地域資源の有効活用 —鳥獣特別保護区の散策路の整備—
- ・住民と交流客の安心・安全な憩いの場として整備

(個性ある道の駅構想)

【道の駅おおがた】概要

設置者	大潟村
運営主体	株式会社 ルーラル大潟
所在地	南秋田郡大潟村字西5-2
電話番号	0185-22-4141
路線名	県道42号線
登録年	平成20年
主要設備・サービス概要	農産物直売施設、特産品販売施設、レストラン、イベントスペース、24時間休憩コーナー
駐車場	普通車72台 (障害者用2台)、大型車10台
営業時間	産直センター潟の店 8:00~18:00(4月~10月) 9:00~17:00(11月~3月)
休館日	1月1日・2日